

# 参加レポート

ユン ジェホ

## 1. 概要

- 1) 名 称 : 第3次社会保障国際学術大会
- 2) 開催期間 : 2007年9月14日(金)~9月15日(土)、2日間
- 3) 主 催 : 比較社会政策研究会(韓国)、日中社会保障研究交流委員会(日本)、  
中国人民大学中国社会保障研究中心(中国)
- 4) 行事主観 : 中央大学校(韓国、ソウル)

## 2. 参加内容

3国の社会政策分野の動向について把握ができた学術大会だった。

「21世紀初日本社会政策の動向、武川正吾」を通じて多様な社会政策の中で介護保険に対する理解を深めた。特に政策と財政の必然性に関する報告は印象的だった。

「経済社会構造の変化と韓国社会福祉の対応、Kim Yun-Myoung」を通じて社会投資戦略のについて力説した。勤労連携福祉と積極的労働市場政策に対する主張が印象的だった。年金制度が日本に比べて比較的活性化されてない韓国の場合、地域社会シニアクラブ<sup>1</sup>も同じな脈絡と考えた。

「小泉・安倍政権の医療改革：新自由主義的改革の登場と挫折、二木立」を通じて観点による政策変化について考えるきっかけになった。特に日本の政策変化と医療制度改革についての明確な説明を聞くことができた。

「韓中日社会福祉関連用語比較」では国家間比較研究の基本になる用語に対する整理を通じて各国間用語の意味を理解することができた。これは今後の本人の研究において良い参照になると考える。

## 3. 結論

各国の社会保障政策について理解ができた学術大会だった。特に政権と経済状況による政策変化に対して考えて見られた良い機会だったし、日韓中三国の用語比較はこれから私の研究において重要な資料に活用されることと判断される。

---

<sup>1</sup> 老人の生活に活力を与えて経綸を社会に還元させて、本格的高齢化社会に備えようとするのに目的がある。2006年から各地域にある社会福祉館で行っている。